

# 健全な山造りを目指して

中津川営林署 田 口 一  
川 上 克 己

## 1. 発表内容

- (1) 担当区の概要
- (2) 雇用の現状と問題点
- (3) 工夫している作業等
- (4) 健全な山造りを目指して

## 2. 担当区の概要

担当区の概要を簡単に説明すると、管理面積は、1,763 haであり、そのうちヒノキを中心とする人工林は、79%を占めている。全域が花崗岩を基岩としているので深層風化が著しく、各所に崩壊地が点在している。人工林のうち、5令級以下が51%を占めているため最近では、下刈・つる切り・除伐それに除伐Ⅱ類を中心とする保育作業が主体となっている。

## 3. 雇用の状況と問題点

担当区では、昭和60年度は、基職7名と製品からの併記延120名、それに、1請負事業体によって事業を実行している。一方、担当区には、振動病認定者が4名と製品からの配置換者2名が勤務しているが、お互いに過去の経験を生かした作業を行い、意見を出し合いながら職場の安全と和を作っている。しかし、問題点も抱えている。特に高令化の問題であるが、担当区の基職7名の平均年齢は54才であり、作業工程とか、安全確保等にも影響が出始めている。このような現状に対しては、若い後継者の採用によることが望ましく、これによって、より良い山造りに向けての意欲が一層向上すると考える。

## 4. 工夫している作業等

### (1) 用具等の考案改良

各作業を進める上で欠かせない道具等の考案、改良については常に注目して取り組んできている。例えば、以前担当区が業務研究で発表した“枝打ち用安全ロープ”と“ノコギリ落下防止器具”を現在も効果的に使用している。

## (2) 枝条寄せ焼きの積極的推進

地拵作業においては、枝条の寄せ焼きを積極的に実行している。

この主なメリットとしては、

- ① 植付予定本数を正確に入れることができる。
- ② 植付後の保育が効率よく実行される。
- ③ 筋置きを柵を作らないことによって全体的に下層植生が生え、林地の崩壊を防止できる。等が挙げられる。

## (3) 除草剤の効果的な使用

特殊下刈では、昭和55年から、歩道修理では昭和57年から除草剤を使用している。また、昭和58年には、サイトロンフレノックを試験地を設けて散布したが、一定の成果が出ているので、今後は、さらに様子を見ながら、使用したいと考えている。経常下刈では、下刈4回目以上に散布しているが、植生を笹から“かん木”に転換させるのを目的とし、散布2年後には再度下刈等を実行して“かん木”の除去を行い一定の成果を上げている。このことを表1で説明すると、

上段は、1-2皆用における、除草剤を散布しない場合の保育標準表。

①～④は下刈4回～7回目に散布した場合の保育表である。

以上のように実行しているが、これまでの結果から特に留意していることは、フレノックは、笹の抑制を目的としているので“かん木”の多い所については、散布の翌年には“かん木”の刈払いを目的とした下刈が必要である。

## (4) 各種被害対策

工夫というより常に先んじて取組んでいることで、カモシカ・うさぎ・ネズミの被害対策について報告する。

カモシカについては、過去5年間の状況を表2で明らかにする。なお、防除面積に示される防除とは、造林木へのネットかぶせ、忌避剤塗りである。

この間、防除対策とか捕獲を行ってきたが、被害も現存頭数も減ってはいないと判断している。さらに今年度は、捕獲をめぐる問題があり、例年のような捕獲数が期待できない状況である。現場としては、以上の状況に対しては、独自に“くくりワナ”等の使用許可を求めていくことが必要だと考えている。

その他、うさぎについては、うさぎワナの設置を、ネズミについては、毒エサ散布を行い、カモシカ同様いずれも早目の防除を心がけている。

## 5. 健全な山造りを目指して

現在までにはいくつかの工夫をこらしての作業を行ってきたが、これからの山造りについては何が必要か提起したい。

### (1) 除伐Ⅱ類、間伐の積極的な推進

現在伐期となっている林分の中には、間伐の実行されていない林分も多く、中、小径木の処理、及び整理地拵の煩雑化等の弊害を産んでいる。この弊害の解消と良質林分形成のためには、5・6令級の多い当担当区としては、今こそ、除伐Ⅱ類及び間伐を積極的に実行しなければならない。

### (2) 除草剤の効果的な使用

当担当区としては、表1で説明した散布体系を進めると共に、下刈後の保育を能率よく実行することを目的とした散布を進めたい。その方法としては除草剤を選びながら散布することによって、現在苦勞している笹海での作業は解消され、能率も向上すると考える。

### (3) 直営生産との連携作業強化

整理地拵については、現在振動機械使用可能者が1名ということで、能率の向上は望めない状況にある。今後は、直営生産の機械力を活用した地拵作業を、今まで以上に進めたい。

### (4) 枝打ちの推進

枝打ちする箇所は原則として1皆用ということであるが、今後は、2皆用においても、労働因子が良く、地位も1皆用に近い所については、枝打ちを進めたい。

### (5) 地域とのつながりの強化

当担当区の位置する上矢作町は、全面積の94%が山林であり、その75%が人工林という林業の町である。国有林も町面積の32%を占めていることから、町との関係は従前から深く、カモシカ捕獲を含めた被害対策とか、各種行事での交流等によって一層のつながりを持っている。

また、上矢作中学校は、毎年部内国有林において全校キャンプを実行しているが、私達は、この機会を利用して、森林教室を開き森林の役割りを含めた国有林のPRを行っている。今後は、上矢作町の経験豊かな技術者との交流の他に国有林の活用拡大とか、地域産業の発展を期した取組みが必要で、例えば、昨年町の森林組合が建設したオガクズ製造工場については、国有林の小径木を利用する方向で検討している。

## 6. 結 論

ともすればマンネリ化しがちな職場においても、国有林を取り巻くきびしさを痛感し、山造りの必要性を強く認識している。

そういう中で担当区は、6年間無災害という記録を皆んなの力で作ってきた。そして今回は、

表-1 経常下刈における除草剤散布保育表

人工林ヒノキ I-2 昏用

経過年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
保育標準表	○	○	○	○	○	○		×		△		×
散布箇所 施業	①	○	○	○	○	○		×		△		×
	②	○	○	○	○	○	○		×			△
	③	○	○	○	○	○	○	△			×	
	④	○	○	○	○	○	○	○	△			×

○--下刈    ×--つる切    △--除伐    ○(斜線)--除草剤散布

山の状態・職場の状態を見直しながら、抱えている問題と工夫している点、それにこれからの山造りの一端を提起した。たいへんきびしく多くの問題はあるが、無災害記録を伸ばしながら、安全で、より健全な山造りを目指して担当区一丸となって、がんばりたい。

表-2 カモシカ被害と防除

	被害面積 ha	防除面積 ha	防除にかけ た人工 人	捕 獲 頭 数		
				私有林	国有林	上矢作町計
56	9	21	37	35	13	48
57	6	9	28	24	16	40
58	3	13	56	21	9	30
59	5	26	79	26	9	35
60	7	25	67	—	—	—
計	30	94	267	106	47	153